綾町埋蔵文化財調査報告書第１３集

HOSHIHARA

星原地下式横穴墓

個人農地開発にかかる埋蔵文化財調査報告書

２０１１．３

宮崎県綾町教育委員会

序　　文

綾町教育委員会では、個人農地開発に伴い平成２２年度星原地下式横穴墓の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、この付近で以前から見つかっている地下式横穴墓と似た特徴を持っている地下式横穴墓が発見され、また人骨なども見つかっております。このような発見は、綾の歴史をひも解くたいへん貴重な歴史的資料となります。

今後も開発と文化財の保護との調整を図れるよう努力していきたいと思います。なお、本書が文化財の保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力いただいた地権者や関係各位の方々に厚くお礼申しあげます。

平成２３年３月

綾町教育委員会
教育長　玉田　清人

例　　言

１．本書は、個人農地開発に伴い綾町教育委員会が主体となり、平成２２年度に実施した「星原地下式横穴墓」の発掘調査報告書である。

２．現地調査における実測図作成は、作業員の協力を得て井上が作成した。

３．図面及び遺物の整理等は、井上がおこなった。また、写真についても井上が撮影をおこなった。

４．本書で用いた方位は磁北、レベルについては海抜絶対高である。

５．本書に用いた土色は、『新版　標準土色帖（２００１年版)』によるものである。

６．本書の執筆及び編集は、井上がおこなった。なお、第Ⅲ章については鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏の執筆による。

７．調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

目　次

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１．調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．調査組織 ・・・ 1

第２節　遺跡の位置と歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第Ⅱ章　調査の全容

第１節　調査の概要と基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１．調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２．基本土層 ・・ 3

第２節　調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

１．遺構 ・・・ 4

２．人骨の出土状況について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

３．副葬品について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第Ⅲ章　宮崎県綾町星原地下式横穴墓から出土した古墳時代人骨

１．はじめに ・・ 6

２．人骨の所見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

３．おわりに ・・ 6

第Ⅳ章　まとめ

まとめ ・・ 8

調査抄録 ・・ 11

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第２図　基本土層図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第３図　地下式横穴墓実測図 ・・・・・・・・・・・・・ 5

図 版 目 次

図版１　基本土層 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

図版２　古墳時代人骨出土状況 ・・・・・・・・・・・ 7

図版３　出土古墳時代人骨 ・・・・・・・・・・・・・・ 7

図版４　発見状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

図版５　竪坑検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

図版６　竪坑土層状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

図版７　竪坑埋土状況（下部） ・・・・・・・・・・・ 9

図版８　竪坑完掘状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

図版９　竪坑ステップ検出状況 ・・・・・・・・・・・ 9

図版10　玄室状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

図版11　羨道状況（玄室側から） ・・・・・・・・・・ 10

図版12　人骨出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

図版13　刀子出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

図版14　遺跡遠景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

図版15　現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第Ⅰ章　はじめに

第1節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成２２年５月、土地所有者より綾町教育委員会へ重機による土地の掘削中に陥没が見つかったとの連絡があった。町教育委員会が現状確認をおこなったところ、地下式横穴墓玄室の天井崩落による陥没と確認された。土地所有者と協議を行った結果、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

調査については、町単独事業として調査することになった。調査面積は８ｍ^{2}である。

２．調査組織

調査の組織は、次のとおりである。

調査主体　綾町教育委員会		
	教育長	玉田　清人
	社会教育課長	谷口　俊彦
	社会教育係長	藤本　匡史
調査担当	社会教育課主任主事	井上　隆広
特別調査員	鹿児島女子短期大学教授	竹中　正巳

第2節　遺跡の位置と歴史的環境

星原地下式横穴墓は、宮崎県東諸県郡綾町大字南俣字星原に所在する遺跡である。綾町は県庁所在地の宮崎市から北西に約２０㎞の位置にあり、大淀川の支流の綾北川、綾南川により開かれた平地に町の中心地が位置する。町の大部分は九州山地で占められており、照葉樹林がよく発達している。

遺跡は綾北川、綾南川により挟まれた錦原台地（中位段丘礫層）の東端縁辺部、標高約６８ｍの場所に位置する。今回発見された地下式横穴墓周辺では以前から地下式横穴墓が発見されており、昭和５６年には宮崎県教育委員会により内屋敷地下式横穴墓の発掘調査が行われ、また地元の聞き取りでは以前から発見が相次いでおり、調査されずに壊された地下式横穴墓も多いと思われる。位置的には内屋敷地下式横穴墓の近くではあったが、今回は字名より星原の名前を取り名前を付けた。周辺の古墳時代の遺跡としては、綾町古墳（首塚）が遺跡から北西約１００ｍのところに所在する。また、町内の地下式横穴墓としては、四反田地下式横穴墓、中迫地下式横穴墓が調査されている。

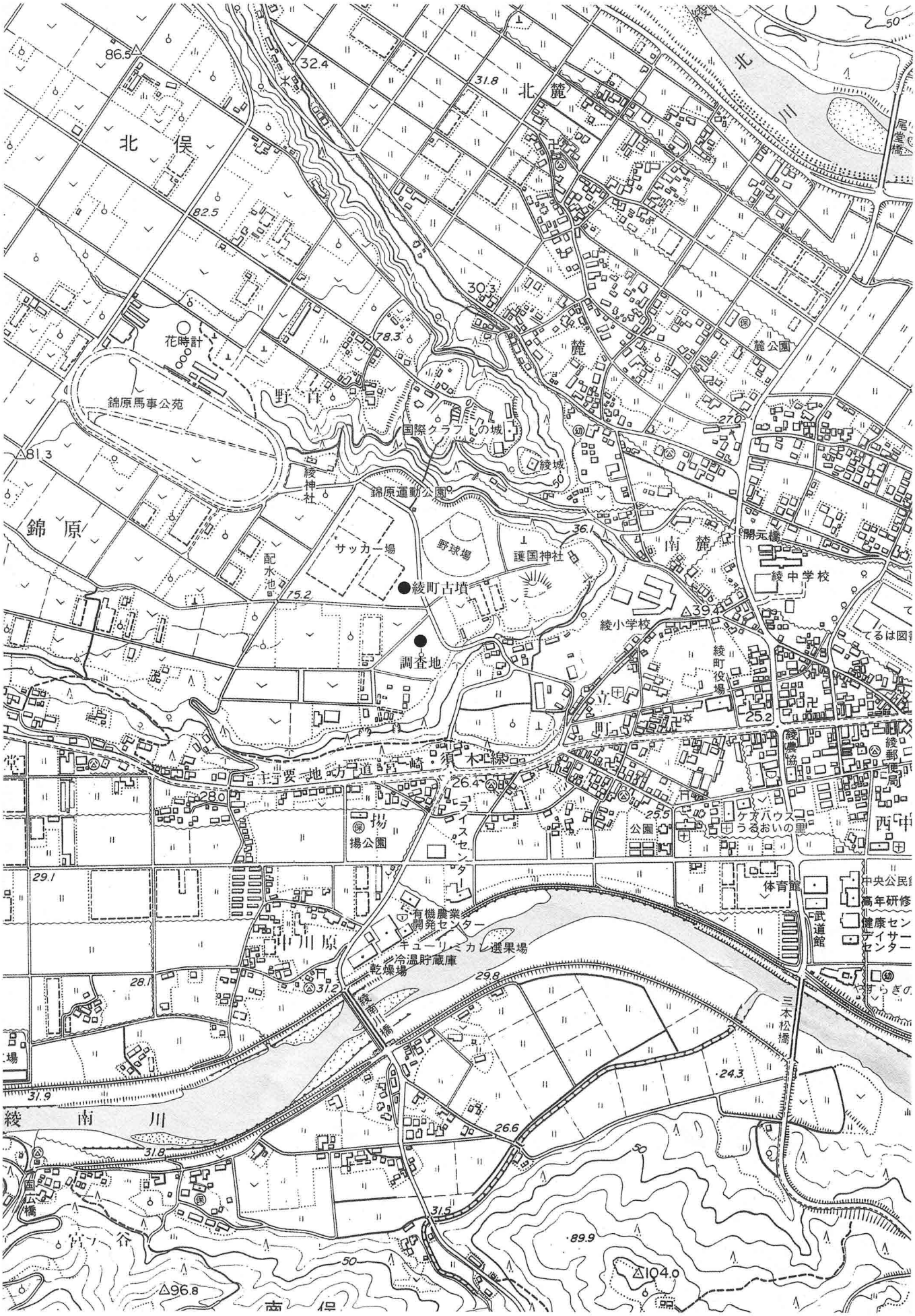
参考文献

石川恒太郎　1969「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第１３集　宮崎県教育委員会

1969「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第１４集　宮崎県教育委員会

面高哲郎　1981「内屋敷地下式横穴発掘調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第２４集　宮崎県教育委員会

宮崎県教育庁文化課(編) 1996『中迫地下式横穴墓群』　綾町教育委員会



第１図　遺跡位置図（S ＝ 1/10000）

第Ⅱ章　調査の全容

第1節　調査の概要と基本土層

１．調査の概要

星原地下式横穴墓の調査は平成２２年７月２０日～９月８日までの間行われた。本遺跡は、サッカー場や野球場などがある町中心部の錦原台地南東端の標高約６８ｍに位置する。調査の概要としては重機によりすでに玄室屋根の一部が壊れていたため、まずは竪坑の検出からおこなった。竪坑の検出はアカホヤ上面での検出を心がけたが、北側部分についてはアカホヤ面の境が不鮮明であったため重機掘削の壁面の立ち上がりにて、検出の参考とした。竪坑土層断面については、重機の掘削面をそのまま利用し観察をおこなった。その後、竪坑内の埋土を手掘りにて除去し、羨道から水没によって玄室内に流入した土を搬出した。玄室内の流入土をすべて除去した後は、鹿児島女子短期大学竹中教授により人骨の実測及び取り上げをおこなわれた。人骨の取り上げ後は玄室内の実測を行い、その後竪坑の実測、すべての実測作業が終わった後は、写真撮影を行い、重機による埋め戻しをおこなった。

２．基本土層

本遺跡における層序は、竪坑内の北壁によりⅠ～Ⅵ層まで分別できた。詳細については以下のとおりである。

Ⅰ層　：　黒褐色土層（10YR２／３）
表土及び耕作土。

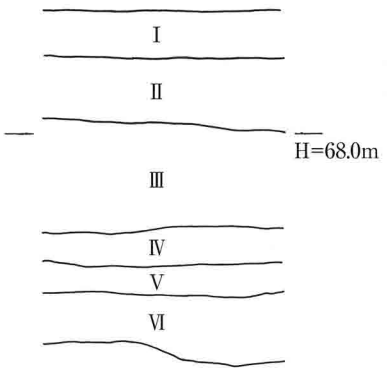
Ⅱ層　：　明褐色土層（7.5YR５／８）
アカホヤ。下部にφ５mm～１mmほどの豆石を多量に含む。さらさらしているが、若干しまり及び粘性あり。

Ⅲ層　：　黒褐色土層（10YR２／２）
クロニガ。非常に硬質で粘性あり。若干炭化物と微細な白色粒を含む。

Ⅳ層　：　暗褐色土層（10YR３／４）
非常に硬質でしまりがあり、粘性あり。微細な白色粒を多く含む。下部は褐色土（10YR4/4）をマーブル状に含む。

Ⅴ層　：　にぶい黄褐色土層（10YR４／３）
小林ボラ。非常に硬質でしまり粘性あり。白色粒を非常に多く含む。φ５mmほどの軽石（明褐色・褐灰色）を若干含む。

Ⅵ層　：　褐色土層（10YR４／４）
粘性があり若干しまりもあり。φ１cm～２mmほどの明赤褐色粒を含み、また白色粒を若干含む。



第２図　基本土層図（S＝1/40）

図版１　基本土層

第2節　調査の結果

１．遺構（第２図）

発見された地下式横穴は、妻入りであった。

○玄室について

玄室は奥すぼみ形の台形に近い長方形を呈し最大幅１．８ｍ、最小幅１．２ｍを図る。玄室内の屋根構造は切り妻造りで最大高０．７５ｍ、最小高０．４５ｍである。玄室内の壁には鉄製工具と思われる造成痕が残っていた。

○羨門・羨道について

羨門は幅約０．５５ｍ、高さ約０．６ｍの縦長の長方形を呈し、羨道の長さは約０．４ｍで竪坑の左よりに設けられている。羨門は閉塞石がなかったが、竪坑の土層断面では詳細には確認できていないが発見された当初玄室内には流入土がほとんどみられなかったことより、板閉塞などの可能性が考えられる。

○竪坑について

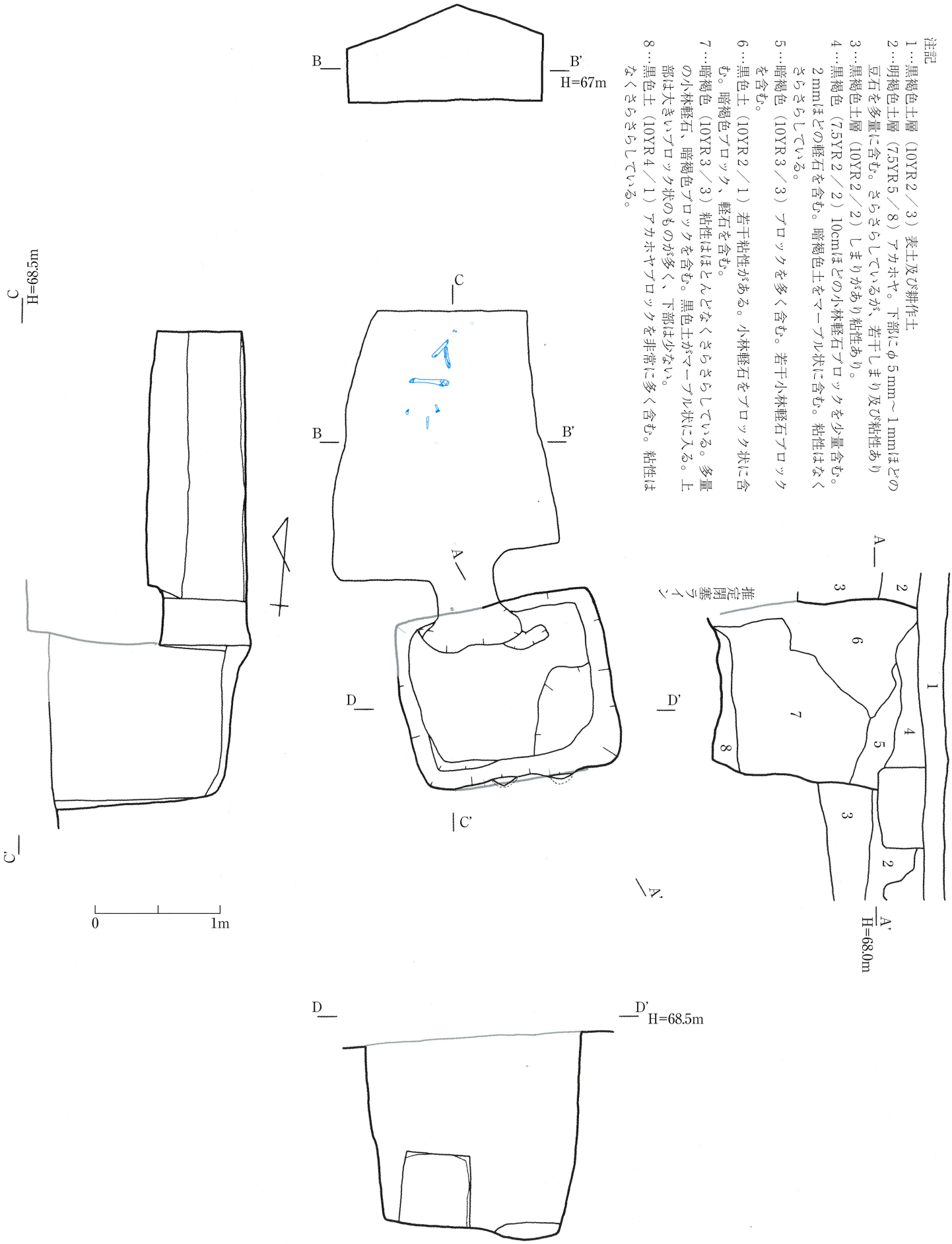
竪坑は上場最大幅１．７ｍ、下場最大幅１．４ｍ隅丸方形を呈する。竪抗には下場から０．７ｍの高さに２ヶ所のステップが残存していた。竪坑内の埋土については、土層観察では再度掘ったような跡は見られず、一度だけの使用と考えられる。また、はっきりした土層堆積の痕跡がみられないことから遺体を玄室に安置した後はすぐ埋め戻しをおこなった可能性がある。羨道の入り口は竪坑床面より一段低くなっていた。

２．人骨の出土状況について

地下式横穴墓からは、性別不明の人骨の歯と遺存状況の悪い下肢が出土している。骨の状況から地下式横穴墓に埋葬されているのは１体であると考えられる。埋葬状況としては、羨道側に頭を向け、玄室奥側に足を向けた状態であったと考えられる。また、人骨の取り上げをおこなった竹中教授の所見からは埋葬された人骨については屈葬の可能性が指摘されている。人骨の性別については依存状況が悪く判定ができなかったが、残存していた歯からは熟年の人骨であることが指摘されている。

３．副葬品について

人骨のそばに平造りの刀子の出土がみられたが、依存状況が悪く図化できなかった。残存部分の直径は１０ｃｍで、幅は刃部が約１．５ｃｍ、把部は約２ｃｍである。また把部には動物等の骨による装飾がみられる。他の副葬品については発見されなかったが、土師質の土器の細かな破片が１点だけ玄室内で発見された。しかしながら、調査中に紛失してしまい年代などの詳細についてはわからなかった。



第３図　地下式横穴墓実測図（S ＝ 1/40）

第Ⅲ章　宮崎県綾町星原地下式横穴墓から出土した古墳時代人骨

鹿児島女子短期大学　竹中正巳

1．はじめに

2010年8月、宮崎県綾町に所在する星原地下式横穴墓から古墳時代の人骨が出土した。出土したのは1体のみで、鉄製の刀子が1本副葬されていた。墓は竪坑が玄室の南側にあり、妻入りタイプで、天井は切妻型に造られている。人骨の保存状態はよくないが、宮崎平野部西端部の地下式横穴から出土した貴重な資料である。

2．人骨の所見

人骨は、歯と下肢の一部が遺存しているだけである。遺存している部位に重複はないことから、1体のみが埋葬されたと考えられる。下肢は、左大腿骨と左右の脛骨が遺存している。左大腿骨と左脛骨は直線上に並んでおらず、かなり膝を曲げた状態である。埋葬姿勢を左大腿骨と左右の脛骨の位置関係から考えると屈葬である。仰臥であったのか側臥であったのかはわからないが、伏臥の状態では埋葬されていない。

遺存している人骨の表面に赤色顔料の付着は認められない。性判定可能な骨の部位が遺存していないことから人骨の性別は不明である。歯は上顎左側切歯と上顎左犬歯が遊離歯の状態で遺存している。咬耗は両歯ともMartinの2度であることから、出土した人骨の死亡時の年齢は熟年であったと考えられる。

歯の大きさを計測すると、上顎左側切歯の歯冠の近遠心径は6.07mm、頬舌径は6.35mmである。上顎左犬歯の歯冠の近遠心径は7.42mm、頬舌径は7.60mmである。縄文人と渡来系弥生人との間には、歯の大きさに有意な差が認められ、縄文人が明らかに小さい。渡来系弥生人につながる集団は、弥生時代以降、現代に至るまで、大きい歯を保っている。星原地下式横穴墓から出土した2本の歯は、いずれも縄文人と同程度の歯の大きさである。

下肢では、左大腿骨に柱状形成が認められる。下肢をよく使ったことがわかる。

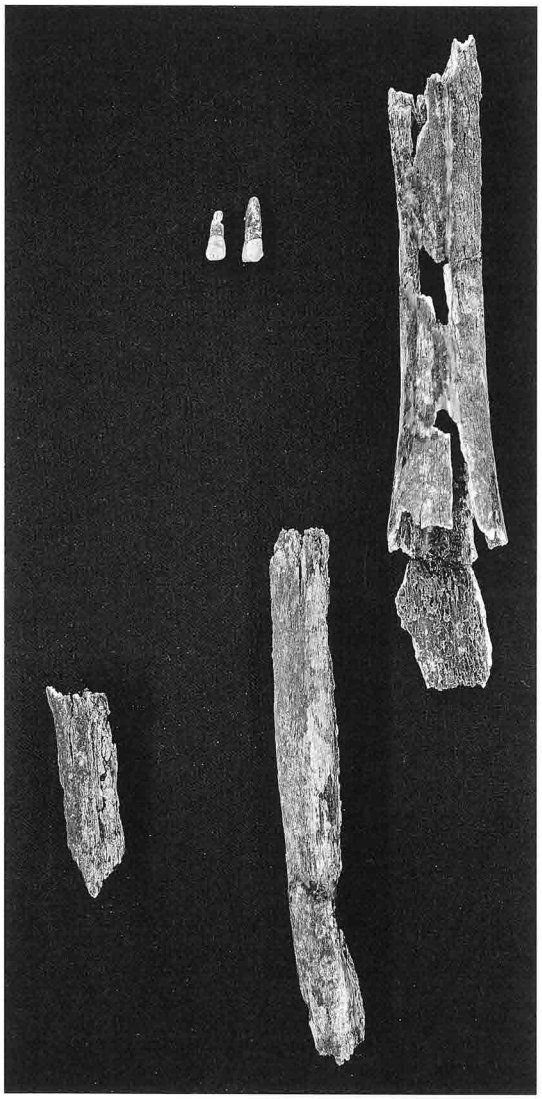
3．おわりに

星原地下式横穴墓から出土した人骨については顔面の形質や身長等が不明であるが、歯の大きさから、少なくとも歯には縄文人的特徴を有することがわかる。星原地下式に近在する内屋敷地下式横穴からは、低広顔の男性熟年人骨が出土している（松下，1990）。宮崎平野の中央部からは高狭顔の古墳時代人骨が出土しており、古墳時代の宮崎平野の中央部とその西端部では形質の地域差があった可能性が考えられる。綾町をはじめとする宮崎平野部西端部の地下式横穴から、今後、更に保存のよい人骨が出土することを期待したい。

参考文献

松下孝幸（1990）南九州地域における古墳時代人骨の人類学的研究.
長崎医学会雑誌 65:781-804.

図版２　宮崎県綾町星原地下式横穴墓から出土した古墳時代人骨（性別不明・熟年）の下肢の出土状況（上：左右脛骨，下：左大腿骨）



図版３　宮崎県綾町星原地下式横穴墓から出土した古墳時代人骨（性別不明・熟年）

第Ⅳ章　まとめ

本遺跡の調査では地下式横穴墓の発見がなされた。梅雨に入る前の調査で長雨などの影響がでる調査となった。担当者の力不足で十分な考察は出来ないがまとめとしたい。

この付近では以前から地下式横穴墓が発見されていた。今回の調査中にも地元の人からの話で、以前から地下式横穴墓は見つかっており、鶏舎をたてるときに空洞が発見され中から土器などが見つかったことや、自分の祖父の頃から陥没が起こっては人骨が発見されていたことを雑談がてら聞くことができた。

昭和５６年の調査では人骨だけでなく多くの副葬品も見つかっている。今回見つかった地下式横穴墓についても昭和５６年に発見されたものと構造（妻入りで切り妻型）や主軸の方向などよく似た特徴をもっている。他の地下式横穴墓の状況について考察は出来ないが、町内北西に位置する７００～８００ｍ級の高さである釈迦岳・矢括岳などの山々を意識した主軸の設定の可能性や、遺跡北西方向に所在している綾古墳（首塚）の高塚墳の周辺を意識した群構造の可能性も一概に否定はできないであろう。また、地下式横穴墓がつくられた時期については、年代を裏付ける遺物が出土していないため年代は判定できないが、昭和５６年調査の内屋敷地下式横穴墓と特徴が似ていることを考え同時期と仮定したときはおおよそ６世紀後半ごろと推測される。今後もこの付近の類例を待ち、全容の解明が出来ることを望みたい。

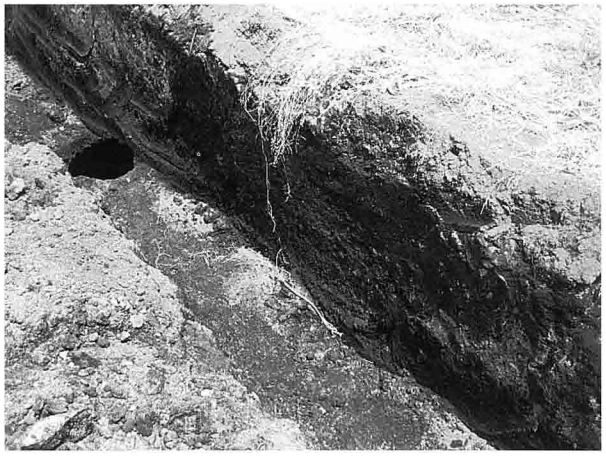
最後に夏場の暑いさなか、地下式横穴出土の人骨の測量及び取り上げを行っていただいた竹中教授には調査の助言などのご指導ご協力をいただいた。本町出身の埋蔵文化財センター谷口めぐみ氏にも作業の手伝いをいただきお礼申し上げたい。また、地権者である児玉氏には物資の提供などの多大な協力をいただき、夏の猛暑のなかでも比較的快適で、有意義な調査が行うことができた。末筆ながらお礼を申し上げまとめとしたい。

【引用参考文献】

綾　町　　1979　『綾町郷土誌』

石川　恒太郎　　1969　「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』第１３集　宮崎県教育委員会

面高　哲郎　　1996　「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古２』宮崎県



図版４　発見状況

図版５　竪坑検出状況

図版６　竪坑土層状況

図版７　竪坑埋土状況（下部）

図版８　竪坑完掘状況

図版９　竪坑ステップ検出状況

図版１０　玄室状況

図版１１　羨道状況（玄室側から）

図版１２　人骨出土状況

図版１３　刀子出土状況

図版１４　遺跡遠景

図版１５　現地説明会

調 査 抄 録

フ リ ガ ナ	ホシハラチカシキヨコアナボ
書　　名	星原地下式横穴墓
副　書　名	個人農地開発にかかる埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第１３集
編 集 者 名	井 上　隆 広
発 行 機 関	綾町教育委員会
所　在　地	〒880-1303　宮崎県東諸県郡綾町大字南俣５４６－１
発行年月日	２０１１年3月

所収遺跡名	所在地	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
星原地下式横穴墓	宮崎県東諸県郡 綾町大字南俣字 星原	32° 00' 02″	131° 14' 48″	H22.7.20 ～ H22.9.8	8㎡	農業 関連

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
地下式横穴墓	古墳時代	地下式横穴墓	人骨（熟年） 鉄器（刀子）	

綾町埋蔵文化財調査報告書第１３集

星原地下式横穴墓

個人農地開発にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１１年 3月

編集・発行　綾町教育委員会

〒880-1303　宮崎県東諸県郡綾町大字南俣５４６－１

TEL 0985－77－1183

印　　刷　株式会社　印刷センタークロダ

〒880-0022　宮崎県 宮崎市大橋２丁目１７５

TEL 0985－24－4351